

北米生産物分類システム (NAPCS) について (概要)
(NAPCS : North American Product Classification System)

1 概要

- 1994年に発効した北米自由貿易協定 (NAFTA) 圏内における生産移転の測定のため、構成国である米国、カナダ、メキシコ共通の生産物分類として作成。2016年3月に全体版 (試用) である「2017 NAPCS Structure」をOMBのHPにおいて公表。
- 他国に例を見ない需要志向の分類原則をとり、財・サービス双方の産業が生み出した生産物の価値及び生産物の価格についてのデータ収集・分析を可能としていることが特徴。

2 分類体系 (2017 NAPCS Structure)

大分類 (section)	2 桁分類	24 項目
中分類 (subsection)	3 桁分類	61 項目
小分類 (division)	5 桁分類	172 項目
細分類 (group)	7 桁分類	276 項目
細々分類 (subgroup)	9 桁分類	497 項目
三国間生産物 (trilateral product)	11 桁分類	1,167 項目

3 3か国間の検討経緯

- NAPCS 構築に係る3か国共同声明 (1999年) を受け、13からなる3か国作業グループを設置し調査を実施。また産業界の専門家からの支援を受けつつ、サービス生産物を段階的に検証・特定。
- 1999年から2009年にかけて、サービス産業分野について検討。その結果、12サービス産業分野から、487のサービス産業と102の生産物を特定。
- 2009年以降は、製造業や小売業など他の残りの分野について検証。
- 2016年3月に全体版 (試用) である「2017 NAPCS Structure」を公表。

4 米国における検討及び実査適用の経緯

- 経済分類政策委員会 (ECPC : 行政管理予算庁により1992年に設立。議長は経済分析局長) のもと小委員会を設立し、①関係する業界団体、学术界等との議論、②産業調査などを実施し、米国の生産物を特定。
- 検討に当たっては、経済分析局、労働統計局及びセンサス局が協働。産業界や学界のみならず、生産者物価指数や国民経済計算のニーズも満たすようなデータが経済センサスで把握されることを確保。
- NAPCSの経済センサスへの適用は、以下のとおり段階的に実施。
 - 2002年 4分野 (情報産業、金融・保険業、専門科学技術サービス等)
 - 2007年 12分野 (全サービス)
 - 2012年 15分野 (全サービス分野及び製造業、卸売業、小売業分野)
 - 2017年 19分野 (全分野) ※予定